

福岡・金光寺跡推定地

金光寺

- | | |
|--|---|
| 所在地 | 福岡県太宰府市大字観世音寺字今光寺 |
| 調査期間 | 一九八五年(昭60)一〇月～一九八六年三月 |
| 発掘機関 | 九州歴史資料館 |
| 調査担当者 | 代表 石松好雄 |
| 遺跡の種類 | 寺院跡あるいは居館跡 |
| 遺跡の年代 | 室町時代 |
| 7
遺跡及び木簡出土遺構の概要 | <p>この遺跡は、特別史跡大野城跡で知られる四王寺山脈の南麓に位置し、国指定史跡観世音寺境内および子院跡の一部でもある。観世音寺の子院四九院の一つである金光寺の跡に比定されるが、発掘調査の結果からは居館跡の可能性も考えられる。</p> |
| (太宰府) | |
| 1
一九五三年に九州文化総合研究所によって一部が調査され、九州歴史資料館も | <p>一九五三年に九州文化総合研究所によって一部が調査され、九州歴史資料館も</p> |
| 2
一九七八・七九の兩年度に | <p>一九七八・七九の兩年度に</p> |

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

られる四王寺山脈の南麓に位する院跡の一部でもある。觀世音寺の子院四九院の一つである金光寺の跡に比定されるが、発掘調査の結果からは居館跡の可能性も考えら

8 木簡の釈文・内容

Ⅱ期（一四世紀代）に属する礎石建物跡の上面をおおう腐植土層から八点の木簡が出土した。形態的には○一型式と○一九型式が各一点、○三三二型式が四点、○八一型式が一点に分類できるが、後掲の一点を除けば、○三三二型式の一点には墨痕が認められず、他の六点は腐蝕や不鮮明などの理由によって判読不可能である。

(1)

64×9×4 011

9

一九五三年に九州文化総合研究所によつて一部が調査され、九州歴史資料館も一九七八・七九の兩年度に

九州歴史資料館『大宰府史跡 昭和六二年度発掘調査概報』(一九八八年)。